

今月の題字
佐羽宏之さん

(桐生市相生町)

わたらせ渓谷鐵道市民協議会の会長さん。令和の時代も「わてつ」を大切な資源として地域づくりに生かそうと頑張っている仲間達の頼もしいリーダーです。

虹の架橋

五代目東家三楽襲名口上!

六月二日は『ながめDE浪曲』
第十八代日本浪曲協会会長の富士路子さんが浪曲界の名跡・五代目東家三楽を襲名し、ながめ余興場で襲名披露口上が行われます。

ながめ余興場で毎年恒例となり、年々ファンが増えている浪曲公演は今年一層の盛り上がりを見せそうです。木戸銭は千円。足利屋、アスク、小屋設計、穂紫野、井筒屋支店、シイナでもチケットを販売中。是非お越しください。
当日は、東家三楽さんが襲名披露口上と「権太栗毛」を語り、浪曲協会理事でもある澤順子さんが



「夢二の女」、東家孝太郎さんが「赤城しぐれ」、東家三可子さんが「赤城山最後の夜」を披露します。
今回も東家三楽さんの曲師を務める伊丹秀敏さんは八十四歳。「芸一筋七十五年浪曲界を曲師として牽引し、現在も浪曲の定席浅草木馬亭で活躍している」ことが評価され、倍賞千恵子さんと吉永小百合さん、三遊亭円歌さんも受賞したことがある「下町人間庶民文化賞」を昨年受賞しました。
浪曲は三下りの三味線を用いて物語を節と啖呵(台詞)で演じる語り芸。ながめ余興場の地下展示室には歴代の浪曲協会会長がながめ余興場の舞台を踏んだ時のチラシなどが展示されています。
ながめ余興場は再び浪曲のメッカとして脚光を浴びています。



虹の架橋へ検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

小耳にはさんだ いい話 (文責・菊) 《286》

『OKバジ・歩き続けた四半世紀』

仙台の波入仁一さんが『OKバジ・歩き続けた四半世紀』というドキュメンタリービデオを制作しました。波入さんは「テレビ番組などでは伝えきれなかったOKバジの真の姿を記録したい」との思いから二度ネパールを訪ね、神々しいヒマラヤの山々を背景に険しい山間の村々を歩きながら、本当に必要な人に必要な支援を続けているOKバジの姿を映像に収めた貴重なDVDです。(DVDをご覧になりたい方は足利屋にご連絡下さい)

OKバジこと垣見一雅さんは二十五年間、単身でネパールへ渡り貧しい村々の支援活動をはじめました。バジとはおじいさんの意味。最初はネパール語が話せずOK、OKと言っていたのでOKバジと呼ばれるようになりました。
垣見さんのひたむきな活動と温かい人柄を知った多くの人たちからの浄財でネパールの寒村に二百以上の学校が建ち、病人を助け、水道をひき、橋を架け、OKバジは村人と一緒に汗を流しながら支援の活動を続けています。

今年の三月十四日にタンセンという町で開かれたOKバジ二十五周年式典には周辺の村々や日本からの支援団体など百七十以上の団体が集まり、OKバジへの感謝が述べられ功績が讃えられました。
垣見さんは「二十五年間も続けて来られた一番大きな理由は、日本の人たちの善意。資金的なこと、励ましの言葉や手紙が支えてくれました。そして村人たちの善意や心の優しさです。それと何より自分が健康に恵まれていたという幸運」と話しています。

映像の中で垣見さんが日本の支援者たちからの手紙を感じ、概深そうに読んでいる場面がありました。
そして、暗い部屋のかすかなライトを頼りに一文字一文字丁寧に返事を書いている様子が見られました。
垣見さんも「虹の架橋」の読者でいつも心温かい感想の手紙が届きます。その手紙がどのように書かれていたかを知り目頭が熱くなりました。
今年も六月に日本に帰国し、全国で報告会が開かれます。六月八日から十日は桐生で報告会や講演会も行われます。六月八日は垣見さんの八十年の誕生日。笑顔溢れる垣見さんと再会が楽しみです。



大間々街路灯組合の親睦旅行で湯西川温泉に行ってきました。鬼怒川や川治から更に山奥に入り、平家の落人伝説の村として有名な湯西川には、身を潜めて生きてきた先祖に倣って、端午の節句に鯉のぼりを揚げない、焚火をしない(煙を立てない)、鶏を飼わないという風習が残り、それを守り続けているそうです。
新緑がキラキラと湯舟に映る露天風呂に入り、すぐ下を流れる湯西川のせせらぎを聞きながら平家物語の一節や湯西川の落人伝説を思い出ししていると、しみじみと今の幸せの有難さを実感しました。

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館



今月の絵手紙 ≪二八六≫
吉政英笑さん『令和の風』

浜松市に住む吉政英笑さんから毎月欠かさず季節感に溢れた素敵な絵手紙が届きます。宛名面の下半分には虹の架橋の感想や近況が記されています。会う機会は少なくても、どんなに距離が離れていても、手紙やハガキのやりとりを続けている人たちは縁が深まるものです。
足利屋トイレ美術館は二十四年前の虹の架橋の創刊から毎月、ご縁のある方から頂いた絵や写真や書などを紹介させていただいています。
ご来店の際には、お香の香りがほのかに漂う足利屋のトイレもお気軽にご利用ください。

靖ちゃん日記

令和元年五月一日(水)
令和最初の日。夫婦で鎌倉で過ごした。北鎌倉駅のそばでそばを食べ、横田南嶺老師の円覚寺と集祥明さんの美術館にも寄った。外は雨だったが気持ちちは葉祥明さんの絵のように晴れ晴れしていた。明月院のマジサイには早過ぎたが喫茶店のフルーツあんみつがうまかった。
江ノ電の駅は人が溢れ、電車の中も身動きがとれず、見たいと思っていた車窓からの景色が見られなかったのが残念。由比ヶ浜の駅で降りた。娘がネットで予約してくれた「かいひん荘鎌倉」の建物は国の登録有形文化財で、古郡鎌倉らしい落ち着いた宿だった。ひと休みしてから相々傘で由比ヶ浜海岸から大仏様まで歩いた。小学校の修学旅行以来だった。外国人の赤子存女の子たちが大きな声ではしゃいでいた。ここはカマクラではなく、ギャハクウラかと思った。
大仏様が眉をひそめてブツブツ言っているように見えた。
新緑の湯ぶね煌めく湯西川
大間々街路灯組合の親睦旅行で湯西川温泉に行ってきました。鬼怒川や川治から更に山奥に入り、平家の落人伝説の村として有名な湯西川には、身を潜めて生きてきた先祖に倣って、端午の節句に鯉のぼりを揚げない、焚火をしない(煙を立てない)、鶏を飼わないという風習が残り、それを守り続けているそうです。
新緑がキラキラと湯舟に映る露天風呂に入り、すぐ下を流れる湯西川のせせらぎを聞きながら平家物語の一節や湯西川の落人伝説を思い出ししていると、しみじみと今の幸せの有難さを実感しました。

第二八七号は七月一日(月)発行予定

♡ やつちゃんの似顔絵提供…ひさかさん